

C-130J配備完了、記念碑除幕式 *C-130J statue unveiling marks fleet complete*

May 3, 2018

By Airman 1st Class Gabrielle Spalding
374th Airlift Wing Public Affairs

C-130Hハーキュリーズから新型Jモデルへの入れ替えが、横田基地で完了するまでには、長い期間を要した。

この歴史的な節目を記念し、チーム横田は4月27日、第374空輸航空団司令部の建物の前に集い、C-130Jスーパーハーキュリーズ記念碑の除幕式を行った。

「機体の入れ替えは、4年間に渡るプロジェクトだった。このC-130Jの記念碑は、インド・アジア地域における世界最新鋭戦術輸送機の配備完了を示すもの」と第374空輸航空団司令官ケネス・モス大佐は述べた。

第374施設中隊が組み立てて設置したこの記念碑は、C-130J輸送機の製造会社であるロッキードマーティン社の善意で贈られたもの。

第374整備群司令官ショーン・ロバートソン大佐は式典で、C-130J配備完了を意味することについて語った。

「太平洋軍と同盟国の要請を支援する横田基地の重要な能力を維持するため、新たな主力輸送機を導入する時が来た。我々はC-130Hにさよならを告げ、世界トップクラスの戦術輸送機C-130Jスーパーハーキュリーズを迎え入れる」とロバートソン大佐は述べた。

その記念碑は、同基地に駐在する1万1000人以上のメンバーや訪問者に、第374空輸航空団が太平洋地域に提供する航空兵力をアピールするものとして公の場に設置された。

「今日は、横田の遺産と太平洋地域において我々が今後も担う重要な使命を祝す日。そして、横田基地が太平洋地域における主要な戦力展開の拠点としての重要な使命を持ち続け、将来に目を向けていくための日である」とロバートソン大佐は述べた。



横田基地第374空輸航空団司令部の建物前で4月27日、除幕されたC-130Jスーパーハーキュリーズの記念碑(右上)と、除幕式に続いて行われた退却式で、国旗をたたむ空兵たち。